

## 【教科名】 美術科

### (1) 目指すもの

中学 表現お及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

高校 美術に関する専門的な学習を通して、美的体験を豊かにし、感性を磨き、創造的な表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術文化の発展と創造に寄与する態度を育てる。

### (2) 授業の進め方

発達段階に応じて、それぞれを養う事を各学年の重点目標とする。

中1 創造力                      中2 技術力                      中3 応用力

高1 基礎的造形力              高2 総合的造形力              高3 美樹系受験基礎力

### (3) 使用教材について

中学 教科書 美術1 日本文教出版      美術2・3上 下      日本文教出版

スケッチブック      ポスターカラーセット      イラストボード      鉛筆他

高校 教科書 美術1 日本文教出版

アクリル絵の具セット      カルトン      画用紙他

【教科名】美術科

(授業内容や使用教材などは事情により変更する場合がある。特に△は変更の可能性あり。)

最終到達目標			●全体目標：美術を媒材とした人間形成。 ※中学目標、及び、高校目標については、別項『(1) 目指すもの』を参照。		
ST	学年	コース	授業目標	授業ポイント	使用教材
第1ステージ	中学1年		□点描画『聖書の中の一場面』 □絵文字 □木版画『一版多色刷り』(変更)	○多色の点描 ○ポスターカラー、書体 △版画表現の基礎	『美術1』(日本文教出版) スケッチブック・ポスターカラー・版板・彫刻刀など
	中学2年		□グラデーションによる平面構成 △木彫『自然物をテーマに』 □鉛筆デッサン『体育館履き』	○明度、彩度、配色 △立体表現の理解 ○鉛筆デッサン基礎	『美術2・3上』(日文) イラストボード・ポスターカラー・桂材・彫刻刀など
第2ステージ	中学3年		□サンドブラスト □モダンテクニックによる自画像 □革コースター	○生活用品のデザイン ○現代的な発想の表現 ○生活用品の美術	『美術2・3下』(開隆堂) タンブラー・イラストボード・革コースターなど
	高校1年		□デッサン『明度による再現描写』 □絵画表現『自画像』 □デザイン『ポスター』	○鉛筆でのリアルな描写 ○絵画表現と人体の造形 ○デザイン表現の基礎	『美術1』(日本文教出版) 鉛筆・アクリルガッシュ絵具セット・カルトンなど
第3ステージ	高校2年	理			
		文	※文系選択科目	○デザイン表現の追求 ○平面、立体の総合表現 ○受験のデッサンの基礎	鉛筆・アクリルガッシュ絵具セット・カルトンなど
		推薦			
	高校3年	理			
		文	※文系選択科目 ※共通選択科目	○志望大学や学部学科を踏まえたデッサン中心の個別学習内容	デッサン及び描画用具一式
		推薦			

年間指導目標	表現及び鑑賞を通じて、想像活動の能力を伸ばすとともに、想像の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。
--------	--

学期	時期	授業課題	学習内容
1 学期	中間	点描画（絵画）	聖書の中の一場面をテーマに、本や、映画なども参考にしながら、各自が好きな聖書の場面を想像画で下描をし、点描画で色をつけていく。のびのびとした豊かな発想力と、たくさんの色を使ってみる事により、こわがらずに色を使えるようになる事と、寒色・暖色・反対色・明度など色についての基本的な知識を身につける事を目標とする。スケッチブック・ポスターカラーを使用。
	期末	上に同じ	上に同じ
2 学期	中間	絵文字(デザイン)	好きな漢字 1 文字を選んで、その漢字の一部分を絵に置き換えて表現する。絵を見ただけで何という漢字かが伝わるようなデザインを考える、ポスターカラーの使い方にも慣れる事と、ものの単純化・デザイン化について学習することを目標とする。 スケッチブック・ポスターカラーを使用。
	期末	木版画（下絵・彫り） 一版多色刷り	自分の尊敬する人の顔をテーマに、下書する。トレーシングペーパーを使用してベニア板に転写して、三角刀で線彫りする。スポーツ選手などの場合は、全身をいれてもよい。人物の表情や、体のつくりについての理解と、彫刻刀の使い方にも慣れる事を目標とする。ベニア倍版・トレーシングペーパー・スケッチブックを使用。
3 学期	学年末	木版画（刷り）	2 学期に三角刀で線彫りした版木に、ポスターカラーで色をつけて、黒画用紙の上からバレンでこすり多色刷りをほどこしていく。色は、暗めのいろからだんだん明るい色で仕上げていく。すべての場所で合計 3 色ずつ色がついたら完成とする。 ベニア倍版・三角刀・バレン・ポスターカラーを使用。

年間指導目標	表現及び鑑賞を通じて、想像活動の能力を伸ばすとともに、想像の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。
--------	--

学期	時期	授業課題	学習内容
1 学期	中間	平面構成 (デザイン)	B4 サイズのイラストボードに、長方形をとり、その中心に 3 cm 幅の縦線を 2 本引く。あとは、両端に向かって幅が 3 ミリずつ減っていくようにたくさん線を引いていきます。その作図をベースに 2 本の曲線を加えてデザインが決まります。縦線の間を、明るさや、色を変えたグラデーションで彩色していきます。最後にアクセントで 2～3 の幾何学模様・動植物のシルエットを加えて完成とします。配色や、色づくり、トーンについての基本的な知識を身につける事を目標とする。文化祭に展示予定。B4 イラストボード・ポスターカラー・トレーシングペーパーを使用。
	期末	上に同じ	上に同じ
2 学期	中間	木彫(彫刻)	動植物などの自然物をテーマに木彫作品を制作する。桂材の板を彫って、原型をどれだけ違う形に変えられるかを評価する。彫刻刀の扱いや、立体作品の表現方法について学習する。桂材・彫刻刀・糸のこぎり・鉛筆・滑り止めマットを使用。
	期末	上に同じ	上に同じ
3 学期	学年末	鉛筆デッサン (絵画)	体育館シューズのデッサンを鉛筆で行う。明暗のとらえ方、立体感の出し方、トーンなどについて学習する。形が、正確に取れない部分があっても、力強く、描き込んでいるかを重視する。体育館シューズ・鉛筆 4B・2B・HB・2H、B4 イラストボード、練り消しを使用。

年間指導目標	表現及び鑑賞を通じて、想像活動の能力を伸ばすとともに、想像の喜びを味わわせ、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う。
--------	--

学期	時期	授業課題	学習内容
1 学期	中間	サンドブラスト (工芸)	コップにシールをまいて、アートナイフで絵柄に沿ってくり抜く。くり抜いた部分に金属粉を吹き付け、ガラスを削りとっていく。削られた部分がすりガラス状になり、コップに絵を描いたよう出来上がりとなる。背景を色紙などで工夫して文化祭に展示する。また、コップが収まる箱も制作する。コップに合ったデザインや模様とはどのようなものか、生活用品のデザインについて考える課題である。コップ・シール・アートナイフ・色紙を使用。
	期末	上に同じ	上に同じ
2 学期	中間	構想画 (自画像) ～の～な私	絵の中に自分が登場し、いろいろな場所で、何かをしている自分を絵画で表現する。さまざまな技法を用いて、自分に合った表現を模索する課題でもある。壁に展示できる範囲であれば、半立体作品も可とする。インパクトや、完成度を重視する。中学 3 年間の総まとめ的な課題。(B3 ケント紙・ポスターカラー・色鉛筆・クレヨン・マブリングインク・ダンボール、色紙他、素材自由。
	期末	上に同じ	上に同じ
3 学期	学年末	皮コースター (工芸)	1 学期に制作したコップとセットの課題で、コースターを制作する。薄口のケント紙を 4 層重ねて型紙を作り、皮コースターにプレス機でプレスして凹凸をつける。ケント紙は、アートナイフを使い、細かい部分もカットするよう努力する。最後に、皮染料で色付けをし、ニスを塗って完成する。シンプルで、独自性のあるデザインが求められる課題。 皮染料・B4 薄口ケント紙・アートナイフ・カッターマット・プレス機・厚紙、ボンド使用。

年間 指導 目標	ものの見方の基本となる『明暗』の把握に関して、ファインアートとデザインの両面から学習し、基礎的な造形理論の理解と基本的な造形的思考法を理解する。また、専門的な美術の制作の喜びを体験し、表現と鑑賞の能力を高め、美術文化の発展に寄与する態度を養う。
----------------	--

学期	時期	使用教材・課題など	学習内容
1 学期		□鉛筆デッサン (明度による再現描写)	鉛筆による細密でリアルな立体や空間の表現を学ぶ。 ねらいは、次の通り。 ①明度による空間・立体・質感の表現。 ②鉛筆の技術の修得。 ③集中力・持続力を養う。 鉛筆という最も単純な道具が、作者の観察や感性を引き出す可能性を高め、また、観察対象を明度に限定することで驚くほどリアルな表現にまで達することができる課題。集中力と持続力を養い、もの作りの原点の喜びを知り、制作の達成感を味わう。高1の最初の課題という点では、本校の美術のスタンスを理解する意味も含めた課題でもある。
2 学期		□絵画表現 (自画像)	アクリルガッシュ絵具とメデュームによる描法。また、人体の造形的把握方法を学ぶ。課題のねらいは、次の通り。 ①造形的見方を理解し、観察力を身につける。 ②絵具とメデュームの用法を理解し、描写力を身につける。 ③自分の表現の発見。 ④人体の構造的な理解。 ⑤遠近感、質感、空間などの理解。 ⑥授業セッティングの訓練。 以上の観点から、単なる似顔絵などではない深い表現力を持った人物画の制作に取り組む。
3 学期	学 年 末	□デザイン (ポスター制作)	デザインの基礎的な思考方『抽象』と『単純化』の概念と、色面による表現技法を学ぶ。以下の点を重視して指導。 ① 目立つこと。 ② 一目でテーマが伝わること。 ③ 独創性があること。 テーマは、各自で決め、それに合うキャッチコピーも考える。